

都の城壁を建造して、神の家としての召会を保護する

聖書：ネヘミヤ 1:3, 2:9-20

- I. エズラ記は、イスラエルの捕囚の帰還と宮の再建との歴史です。ネヘミヤ記は、エルサレムの都の城壁の再建の歴史です——ネヘミヤ 2:17-20：
- A. エルサレムの都は、都の中にある神の家の防衛と保護でした——ネヘミヤ 2:13：
1. これが表徴するのは、地上での神の住まいまたホームとしての神の家が、彼の王国が領域として確立されて、彼の行政のために地上での彼の權益を保護し、それによって彼が彼のエコノミーを完成することを必要とするということです——15 節。
 2. 神の家を再建することは、墮落した召会を神が回復することを予表し、エルサレムの都の城壁を再建することは、神の王国を神が回復することを予表します——17-20 節。
- B. 神の家の建造と神の王国の建造は同時に進行します——マタイ 16:18-19。
- II. ネヘミヤ記の最初の区分である第 1 章から第 7 章は、ネヘミヤの下でのエルサレムの都の城壁の再建についてです：
- A. ネヘミヤは、エルサレムの城壁が崩され、その城門が火で焼かれてしまったという報告を受けました——ネヘミヤ 1:3 後半。
- B. ネヘミヤ記第 2 章 9 節から 16 節は、ネヘミヤのエルサレムへの行程と、エルサレムの都の城壁の状態についての彼の個人的な観察について語っています。
- C. ネヘミヤ記第 2 章 17 節から 20 節は、エルサレムの城壁の再建に関する言葉です：
1. 宮は主の臨在の場所であり、そこでわたしたちは主に会い、主に仕えますが、それは保護を必要とします。
 2. 都の城壁は宮の防御です。都の城壁がなければ、保護がありません。
 3. 都の城壁は保護のためであるだけでなく、分離のためでもあります。
 4. ネヘミヤ記は、わたしたちがみな城壁の自分の部分を建造しなければならないと告げています。あらゆる人は自分自身の部分を建造すべきです——ネヘミヤ 4:6, 19。
- D. わたしたちは「城壁を建て上げ」るネヘミヤの模範に内在的に従って、神の王国としての召会を建造する必要があります。それは神の家、神の住まいとしての召会を保護するためです——2:4, 10, 17-20. エペソ 2:21-22。
- III. 城壁の建造の養成は、キリストの頭首権の下で、わたしたちすべてを命に

おける正しい秩序へともたらずことです——エペソ 1:22-23．コロサイ 1:18． 2:19：

- A. キリストは団体的に召会であるからだのかしらであり、また個人的にすべての信者のかしらです。彼は直接わたしたち一人一人のかしらです——コロサイ 1:18． I コリント 11:3。
 - B. 召会生活は、キリストの唯一の頭首権の下でかしらにつり上げられる生活です——エペソ 1:10， 22-23． 4:15-16． コロサイ 2:19。
 - C. わたしたちがキリストの唯一の頭首権を尊ぶなら、主の回復において、召会は家になるだけでなく、都にもなります——ヘブル 11:10． エズラ 1:2-3． ネヘミヤ 1:9． 2:5， 17． I テモテ 3:15． 啓 21:2， 10-11：
 - 1. 家としての召会は、おもに命としてのキリストと関係があり、都としての召会は、おもにかしらとしてのキリストと関係があります——I テモテ 3:15． マタイ 5:14． コロサイ 3:4． 1:18：
 - a. わたしたちはキリストを命として経験し、享受するとき、家としての召会を持ちます。わたしたちはキリストの唯一の頭首権を実現するとき、召会は拡大されて、神の王国を表徴する都となります——マタイ 16:18-19。
 - b. 都としての召会は、命としてのキリストをもって建造されるだけでなく、キリストの頭首権をもっても建造されます。こういうわけで、キリストは、わたしたちの命となるだけでなく、わたしたちのかしらともならなければなりません——コロサイ 3:4． 1:18． 2:19。
 - 2. わたしたちがキリストの唯一の頭首権を尊ぶなら、召会は王と彼の王国とのために、家から都へと拡大します——詩 48:1-2． I コリント 1:2． 12:12-13， 27． エペソ 1:22-23． 4:15-16． 啓 21:2， 10-11， 14． 11:15。
- IV. わたしたちは城壁を建造して、異なる教えから召会を保護する必要があります。異なる教えは使徒たちの教えに反しています——使徒 2:42． I テモテ 1:3-4：
- A. 異なる教えは、神のエコノミーと一致しない教えを指しています——I テモテ 6:3。
 - B. I テモテ第 1 章 3 節から 4 節、6 節から 7 節、第 6 章 3 節から 5 節、20 節から 21 節の異なる教えと第 4 章 1 節から 3 節の異端は、召会の衰退と墮落と悪化との種であり、根源です。
 - C. 異なる事を教えることは、神の建造を壊し、神のエコノミーを無効にしま

す。少しでも異なる教えは、回復を破壊します。

D. 地方召会の行政と牧養のために必要とされる第一の事は、異議を唱える者たちの異なる教えを終結させることです。異なる教えは、聖徒たちを神のエコノミーの中心路線からそらします——テトス 1:9。

E. わたしたちは異なる教えを避け、キリストと召会に関する神のエコノミーに集中しなければなりません——I テモテ 1:3-4. エペソ 3:9. 5:32。

V. 城壁が召会の中で建造されるなら、わたしたちは、敵によって用いられて神の建造する働きを破壊する者から保護されます：

A. 神聖な建造を破壊する者は、異端を宣べ伝え教える者です——II ペテロ 2:1. II ヨハネ 7-11 節：

1. キリストのパーソンに関する異端を教える者は、反キリストであって、主人としての主のパーソンと、主が信者たちを買い戻した贖いを否定します。人なるイエスが神であることを否定することは大きな異端です——7 節. I ヨハネ 2:18, 22-23. 4:2-3。

2. 使徒は信者たちに、自らのために目を覚まして、異端に影響されたり、真理の事柄を失ったりしないようにと警告しました。わたしたちは、キリストが胎に入ったことと彼の神性を否定する者たちを拒絶し、彼らを家に迎え入れることも、彼らにあいさつすることもしてはなりません——II ヨハネ 8-11 節。

B. 神聖な建造を破壊する者は、分裂を引き起こす者、分派的な者です——テトス 3:10：

1. 分裂を引き起こす者は異端的で、分派的な者であって、召会の中で自分自身の意見にしたがって党派を形成し、分裂を作ります。召会の中で良い秩序を維持するために、分裂を引き起こす者、分裂的な人を、一、二度訓戒した後、退け拒絶すべきです——10 節。

2. そのような分裂は伝染するので、この拒絶は召会の益のためであり、分裂的な者との接触を停止するためです——参照、民 6:6-7。

C. 神聖な建造を破壊する者は、分裂を作る者です——ローマ 16:17：

1. ローマ第 14 章でパウロは、教理や実行において異なる人を受け入れることで、寛大で寛容でした。しかしながら、ローマ第 16 章 17 節で、彼は固く決然として言いました。わたしたちは「学んできた教えに反して、分裂やつまずきの原因を作る者たちを警戒し、また彼らから離れ去」らなければなりません。

2. 主は「兄弟の間に争いを起こす者」を憎みます——箴 6:16, 19。

D. 神聖な建造を破壊する者は、地位に対する野心のある者です——Ⅲヨハネ 9 節：

1. 主のためのどの働きにおいても、わたしたちは決してかしらになろうとすべきではありません。これは隠れた野心の陰湿な働きであり、かしらになることを、人と争うことです——9 節。
2. 神聖な建造を破壊する者は、おおかみであって羊の群れを惜しまない者であり、また曲がった事柄を語って信者たちを引き離し、自分に従わせようとする者です——使徒 20:29-30。

VI. 城壁が建造された後、わたしたちは召会に対する死の攻撃に対抗することができ、キリストの復活の命の中でキリストのからだを建造することができるようになります——マタイ 16:18 . ヨハネ 11:25 . エペソ 1:22-23 . 4:16 :

A. 死は、サタンの働きの特徴です。サタンの働きの究極の目標は、人に死を浸透させることです——ヘブル 2:15。

B. マタイ第 16 章 18 節は、どの源から召会に対する攻撃が来るかを示しています。それは「ハデス[陰府]の門」、すなわち、死です：

1. サタンの特別な目的は、死を召会の内側で広めることです。彼が召会に対して最も恐れるのは、召会が彼の死の力に対抗することです——啓 2:8, 10-11。
2. 「この岩」の上に建てられる召会は、死と命を識別することができます。ハデス[陰府]の門は、それに勝つことはありません——マタイ 16:18。

C. わたしたちは、キリストが最初の者また最後の者(永遠に存続し、変わらない方)、死んだが再び生きた方(復活である方)であることを知る必要があります——啓 1:17-18 . 2:8 . ヨハネ 11:25 . 使徒 2:24。

D. わたしたちはキリストの復活の命の中でのみ、キリストのからだを建造することができます——エペソ 2:6, 21-22 . 4:16 . 啓 1:18 . 2:8 . ピリピ 3:10:

1. キリストのからだは、キリストの復活の命の中にあります——ヨハネ 11:25 :
 - a. キリストのからだとしての召会の性質は、復活です——使徒 2:24 . エペソ 1:19-23。
 - b. 召会は新創造であり、キリストの復活の中で、また復活したキリストによって創造されます——I ペテロ 1:3 . エペソ 2:6 . ガラテヤ 6:15。
2. キリストのからだは、復活の中にあり、復活の実際は、命を与える霊としてのキリストです——ヨハネ 11:25 . 20:22 . I コリント 15:45 後半。

3. 復活の原則は、天然の命が殺され、神聖な命がそれに代わって起き上がることです——Ⅱコリント 1:9。
4. わたしたちは、天然の命によって生きないで、内側の神聖な命によって生きるとき、復活の中にあります。そのような生活の結果は、キリストのからだとしての召会の成長と建造です——ピリピ 3:10-11. エペソ 4:15-16. コロサイ 2:19. 3:15。

©2022 Living Stream Ministry